

平成29年度5月号 [5月16日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校
川口市東本郷2-20-47番地
TEL 048-281-4065
特別支援学級 285-2423
さわやか相談室 281-4627
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

マスク依存症

校長 安部正幸

風薫る気持ちの良い季節になりました。しかし、空気中には今でも何らかの花粉が飛んでおり、花粉症の人にはまだまだ辛い日が続くようです。そのような人たちにとってマスクは必要不可欠なものとなっています。ただマスクをよくあごまで下げている人を見かけますが、花粉症の人の場合一度あごに下げたマスクは、あごに付着していた花粉を拭き取ってしまい、再び着用すると症状が悪化するのでやめたほうが良いという話を聞いたことがあります。ところで最近、マスクの目的外着用ということで、表題のような『マスク依存症』なる言葉が目につくようになりました。マスクが本来持つ役割とは別に、顔を隠すだけのために着用する人が増加しているそうです。そして、その傾向は20歳代以下の若者に顕著に表れているということです。中にはマスクをしていないと不安になるという精神疾患を抱えている人まで出てきたようです。

対人不安障害や社会不安障害のおそれ

『伊達マスクに隠された若者のサイン』という記事を読みました。それによると、マスクを目的外につける心理背景には、人と関わりたくない、自信がない、他の人とうまく話せない、人に顔を見られると困ることがある、自分の顔にコンプレックスを感じているなど様々な要因が隠されているそうです。最初は伊達マスクとして着用していたものが、マスク依存症となり、続いて対人不安障害や社会不安障害を引き起こし、さらには不登校、引きこもり、ニート、家庭内暴力へと発展していくケースもあるとのことでした。

人格形成期にはマイナス面も

最近では、感染防止や予防のために小中学校でも、積極的にマスクの着用を推奨するなど、以前に比べてマスクを着用するハードルが下がったことも、マスクに頼る人が増加したことに影響しているようです。しかし、本来人格を形成しなければならない小中学生の時期に、対人不安障害や社会不安障害を引き起こしていたのでは、何のためにマスクの着用を推奨してきたのかが分からなくなってしまいます。これからの社会では、コミュニケーション能力が重要だと言われています。今回様々な記事を読んで、コミュニケーション能力の育成を阻害するマスクの着用には、注意が必要だと感じました。不要なマスクの着用は、子どもからの何らかのサインかもしれません。

以前、高校に勤務していたときに入試の面接試験の際、マスクをしたまま面接を受けた生徒のことが話題になりました。花粉症やインフルエンザの季節ではありますが、やはり場に応じた対応は必要だと思います。『面接』ですからどのような事情があっても『面』を見せてくれなければ良い結果が得られるとは思いません。その生徒は、花粉症でもインフルエンザでもなかったようです。すでにマスク依存症だったとしたら気の毒な話です。